

2016年3月期 第1四半期 業績概要

橋本 裕一

アンリツ株式会社
代表取締役社長 グループCEO

2015年7月31日



東証第1部：6754
<http://www.anritsu.com>

Anritsu
envision : ensure

(ノート部記載なし)

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限られるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

(ノート部記載なし)

目次

I. 2016年3月期第1四半期 業績概要

I - 1. 事業概要

I - 2. 連結決算概要

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

II. その他

II - 1~5. 計測事業の成長ドライバーと事業機会

II - 6. 産業機械事業セグメント名称変更

(ノート部記載なし)

I - 1. 事業概要



(セグメント別売上比率) 2015年3月期 実績(連結) : 988億円

T&M 74%			PQA 16%	その他 10%
モバイル 50%	ネットワーク・インフラ 30%	エレクトロニクス 20%		

(計測事業 地域別売上比率)

日本 15%	アジア、パシフィック 35%	米州 30%	EMEA 20%
--------	----------------	--------	----------

PQA : Products Quality Assurance (従来のセグメント名称 産業機械事業)

(ノート部記載なし)

I - 2. 連結決算概要 - 事業別状況 -

セグメント	2016年3月期第1四半期（4月-6月）の状況
▶ T&M：キャリアアグリゲーション開発需要は継続	
モバイル	LTE-Advanced関連堅調
NW	光デジタル関連への設備投資堅調
エレクトロニクス	モジュール開発・業務用無線で回復の兆し
アジア	モバイル開発、光デジタル関連等は堅調だがモバイル製造設備の更改需要は鈍化
米州	LTEネットワークの建設投資に一巡感
▶ PQA：設備更改需要を新製品がとらえ増収増益	

NW: ネットワーク・インフラ PQA: Products Quality Assurance

計測事業は、LTE-Advancedの要素技術であるキャリアアグリゲーション開発関連の需要が、業績を牽引しました。一方、全世界のモバイル端末出荷台数の年伸び率は鈍化する傾向にあり、中国端末ベンダーの設備投資にも慎重な姿勢が見られました。

ネットワーク・インフラ市場においては、光デジタル関連計測器の需要がけん引した一方、北米でLTEネットワークの建設投資に一巡感が見られました。

プロダクツ・クオリティ・アシュアランス(PQA)事業は、前期に投入したX線異物検出機や金属検出機が国内市場の更改需要を捉え、受注を伸ばしました。また、海外市場での拡販に向けて、研究開発投資と販売促進活動に積極的に取り組みました。

なお、当連結会計年度より、従来「産業機械事業」としていた名称を「プロダクツ・クオリティ・アシュアランス事業」に変更しております。

I - 2. 連結決算概要 - 業績サマリー -

 前年同期比で増収増益を確保

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)	前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
受注高	238	240	2	1%
売上高	222	236	14	7%
営業利益	14	15	1	8%
税引前利益	14	17	3	24%
当期利益	8	11	3	41%
当期包括利益	7	25	18	260%
フリーキャッシュフロー	26	14	△12	△47%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

グループ全体の受注高は前年同期比1%増の240億円、売上高は前年同期比7%増の236億円となりました。営業利益は前年同期比8%増の15億円となりました。

第1四半期の特記事項として、グローバル本社棟の使用開始に伴う費用が増加しました。

なお円安に伴う為替差益のため、税引き前利益は17億円となりました。

当期利益は、前年同期比41%増の11億円、包括利益は、前年同期比260%増の25億円となりました。

フリーキャッシュフローはグローバル本社棟の建設費用の支払いなどもあり、14億円のプラスにとどまりました。

I - 2. 連結決算概要 - 受注高推移 -

- ▶ T&M：北米のネットワーク建設投資が抑制傾向
- ▶ PQA：四半期として過去最高額



Anritsu envision:ensure

7

Financial Results FY2015Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

計測事業の第1四半期受注高は、アジア市場でLTE-Advanced開発関連計測器の需要が伸長しました。その一方、北米のネットワーク・インフラ市場において、オペレーターのLTEネットワーク建設投資抑制が見られたことなどから、前年同期比3%減の173億円となりました。

PQA事業の受注高は、新製品の投入効果などもあり、国内市場において堅調に伸び、前年同期比30%増、四半期として過去最高額の49億円となりました。

その他事業についてはほぼ前年並みの受注を獲得することができました。

なお、受注残高はグループ全体で200億円(前期比2%増)、計測事業で147億円(前期比5%減)でした。

I - 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

(単位：億円)

国際会計基準(IFRS)		前第1四半期 (4-6月)実績	当第1四半期 (4-6月)実績	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率(%)
T&M	売上高	176	181	5	3%
	営業利益	20	18	△2	△7%
PQA	売上高	28	37	9	30%
	営業利益	△4	△0	4	-
その他 (含：内部消去)	売上高	18	19	1	7%
	営業利益	△2	△3	△1	-
合計	売上高	222	236	14	7%
	営業利益	14	15	1	8%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

PQA : Products Quality Assurance

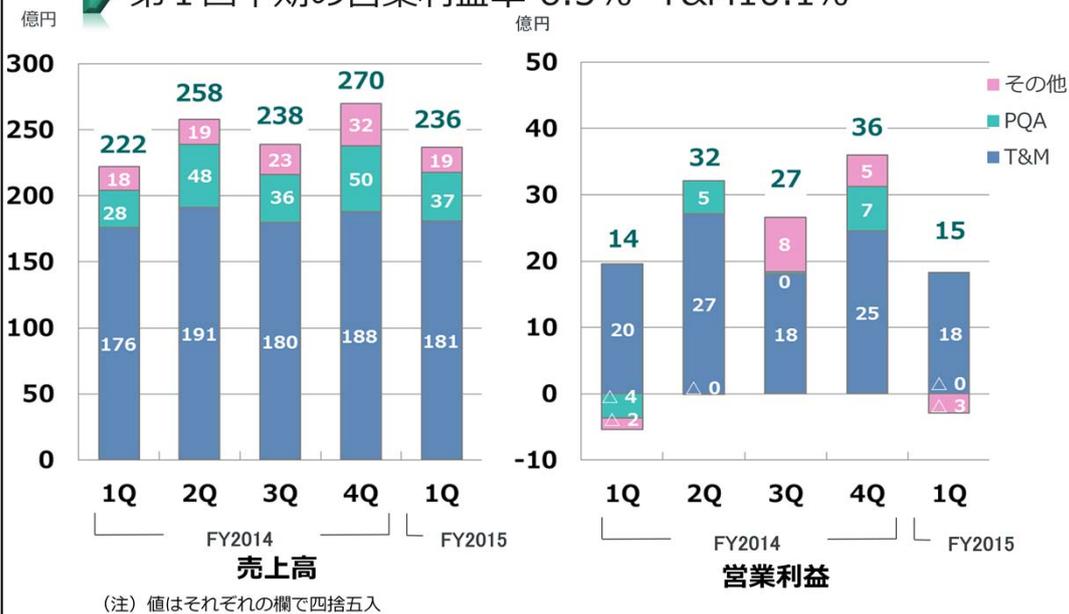
計測事業は増収減益となり、営業利益率は10.1%となりました。

営業利益の減少要因は、販管費の増加によります。研究開発費は前年同期と同水準です。

PQA事業は国内市場での売上高が伸びた一方、研究開発投資と海外展開投資を積極的に進めた結果、営業利益は△3百万円にとどまりました。

I - 2. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

第1四半期の営業利益率 6.5% T&M10.1%



Anritsu envision:ensure

9

Financial Results FY2015Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

第1四半期の連結及び計測事業の営業利益率はそれぞれ

連結 6.5%

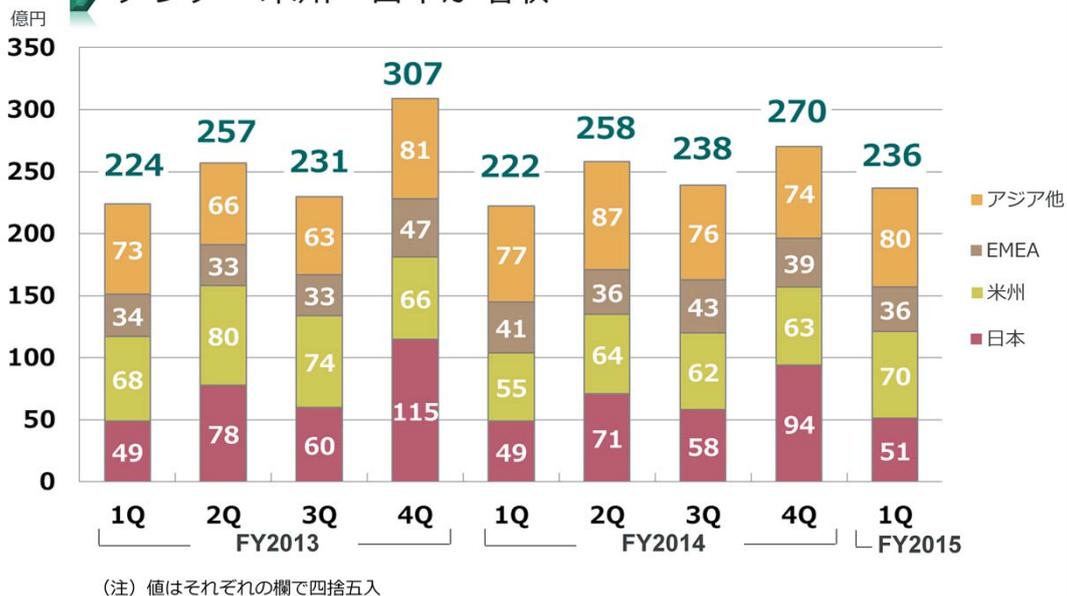
計測 10.1%

となりました。

計測事業の第1四半期の営業利益が前年同期と比べ減少した要因は、販管費が増加したことによります。

I - 2. 連結決算概要 - 地域別売上高推移 -

アジア・米州・日本が増収



日本市場の売上高は、PQA事業の増収により、全体としても5%の増収となりました。

アジア市場では、中国・台湾を中心とした計測モバイル市場がけん引して、3%の増収となりました。

EMEA市場は、顧客の事業再編・撤退による投資鈍化がみられ、12%の減収となりました。

北米市場は、モバイル開発用計測器が押し上げて、前年同四半期比で28%の増収となりました。

I - 2. 連結決算概要 - キャッシュフロー -


営業CFマージン率28%
社債80億円発行

FY2015 Q1

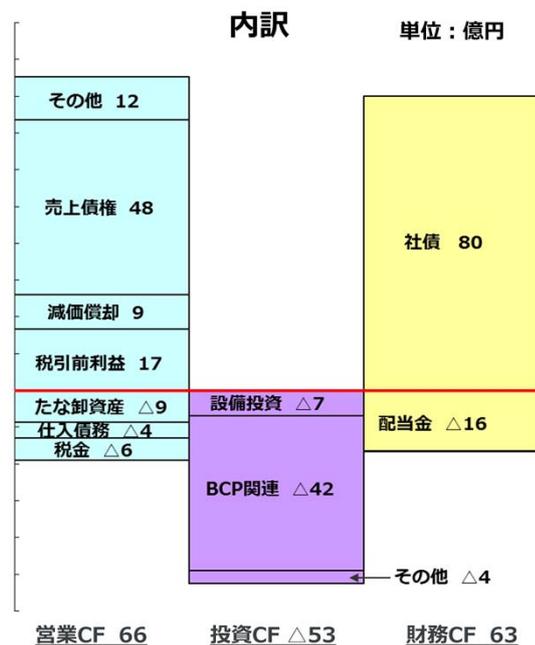
①営業CF： 66億円
 ②投資CF：△ 53億円
 ③財務CF： 63億円

フリーキャッシュフロー
 (①+②)： 14億円

現金同等物期末残高
 433億円

有利子負債高
 240億円

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入



営業キャッシュフローは、主に売上債権の回収増により、66億円の資金獲得となりました。

営業キャッシュフロー・マージンは28.1%となりました。

投資キャッシュフローの53億円の支出には、厚木サイトの新棟「グローバル本社棟」の建物関連費用42億円の支払いが含まれます。

その結果、フリー・キャッシュフローは14億円の資金獲得となりました。

財務キャッシュフローの63億円の資金獲得のうち、主なものは社債の発行による80億円(償還期限:2020年6月,格付けA-)、配当金の支払い16億円(1株配当:12円)です。

以上の結果、現金同等物期末残高は、期首残高より84億円増加の433億円となりました。

I - 3. 2016年3月期 通期業績予想（連結）

▶ 4月開示より変更なし

国際会計基準(IFRS)		2015/3期		2016/3期	
		前期実績	通期予想	前期比 増減額	前期比 増減率(%)
売上高		988	1,030	42	4%
営業利益		109	110	1	1%
税引前利益		116	109	△7	△6%
当期利益		79	80	1	2%
T&M	売上高	734	750	16	2%
	営業利益	89	90	1	1%
PQA	売上高	162	180	18	11%
	営業利益	8	11	3	33%
その他 (含：内部消去)	売上高	92	100	8	9%
	営業利益	11	9	△2	△19%

(注) 値はそれぞれの欄で四捨五入

(参考) 想定為替レート：1米ドル115円、1ユーロ=130円

2015年度の通期業績の見通しは、4月27日に発表した計画から変更はありません。第1四半期の進捗状況は年初計画の通りです。引き続き、達成に向けて、組織を挙げて取り組んでいく所存です。

計測事業を牽引するモバイル計測事業においては、キャリアアグリゲーションの拡張に代表されるLTE-Advancedの開発投資や、モバイルネットワークのスマートフォンセル化に向けた投資が期待されます。

PQA事業は、国内外の堅調な需要を、最適なソリューションの投入で確実に獲得していきます。

Ⅱ. その他

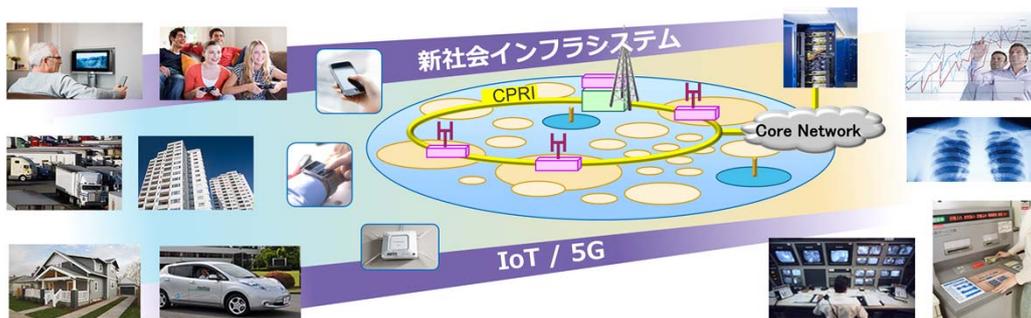
Ⅱ - 1~5. 計測事業の成長ドライバーと事業機会

Ⅱ - 6. 産業機械事業セグメント名称変更

(ノート部記載なし)

Ⅱ - 1. 計測事業の成長ドライバーと事業機会

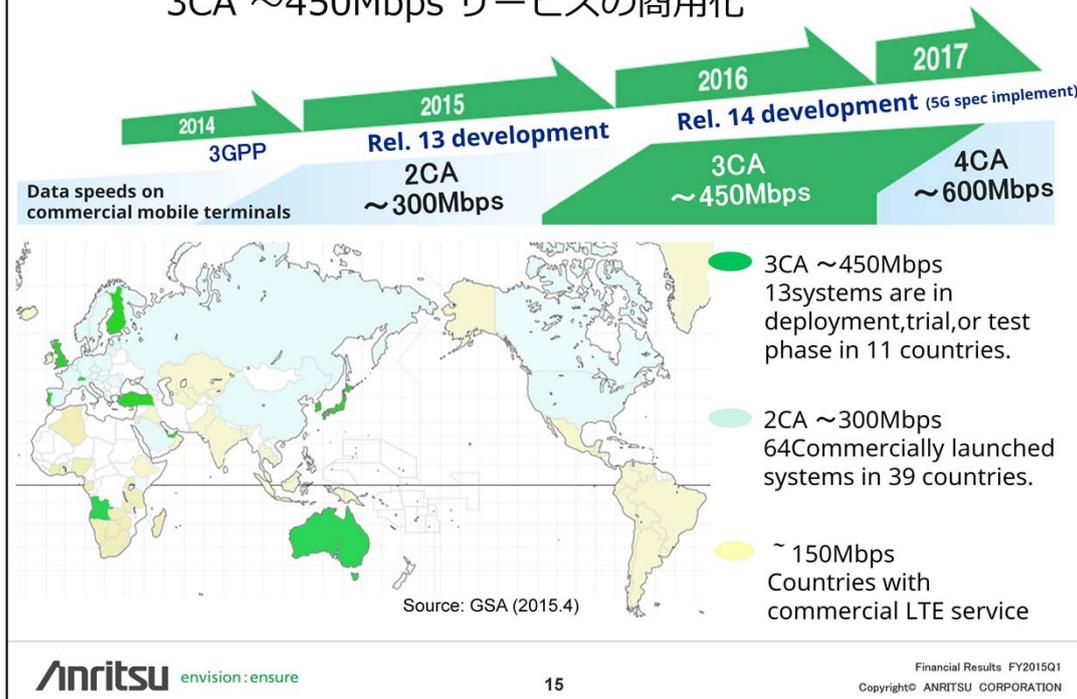
GLP2017 成長ドライバー	事業機会	スライド
LTE-Advanced 5G	3～5 GHz帯の利用が始まる 3CA(450Mbps)のサービス開始 5Gは標準化活動がスタート	15 16
新しい基地局 ネットワーク	スモールセル化への投資が始まる	17 18



GLP2017で掲げた成長ドライバーのうち、第2四半期以降で期待される事業機会を紹介します。

詳細は次のスライド(15～18)を参照して下さい。

II - 2. CA評価用の測定需要が今年度大きく立ち上がる見込み 3CA ~450Mbps サービスの商用化



ダウンリンクの3周波数を利用する LTE-Advancedの3キャリア・アグリゲーション(3CA)は、すでに11ヶ国で13のシステムが実証実験などテストが進行しています。

日本では、昨年12月に認定された新しい周波数(3.5GHz帯)を使用した 3CA サービスの準備が進んでいます。北米では、免許不要の周波数帯をLTEシステムとして利用するLTE-U (LAA)サービスへの投資に積極的です。韓国ではLTEとWiFiのアグリゲーションの商用化も視野に入ってきました。

それらの新しいサービスに向けたチップセットや端末の開発競争は今年度急速に立ち上がってきます。

当社は昨年12月に、「業界初となる3CA機能を利用した450Mbpsでのデータ通信の成功」について発表いたしました。それ以降も業界のリーディングカンパニーと共同で検証を継続し、競争に先駆けてラインアップを拡充しています。

* LTE-U: LTE-Unlicensed

* LAA: Licensed Assisted Access

II - 3. アンリツはLTE-Advanced対応ソリューションで先駆的役割を果たす

3CA (FDD & TDD) 開発評価需要の拡大に向け新製品を継続投入。

	プラットフォーム コア開発	RF認証試験	プロトコル認証試験 キャリア受入試験
お客様	チップセットベンダー 端末ベンダー	チップセットベンダー ・ 端末ベンダー オペレーター	
新しい ソリューション	 <p>1台で4CAに対応(業界で唯一) MT8821C</p>  <p>業界初3CA(450Mbps)の データ通信に成功 MD8430A</p>	 <p>グローバル シェアNo1 ME7873 シリーズ</p>	 <p>グローバル オペレータの 認証試験で採用 ME7834 シリーズ</p>

Anritsu envision:ensure

16

Financial Results FY2015Q1
Copyright© ANRITSU CORPORATION

3キャリアアグリゲーション(3CA)に対応するチップセットや端末の開発を加速させる、アンリツのモバイルR&D向けソリューションを紹介いたします。

- MT8821C 疑似基地局として動作して、無線信号の特性評価に貢献 一台で4CAまで対応可能な業界唯一のソリューション。
- MD8430A 疑似基地局ネットワークとして動作して、端末の総合動作検証に貢献
- ME7873LA 無線(RF)信号の規格適合(コンFORMANCE)試験機
- ME7834LA 通信手順(プロトコル)の規格適合試験。及び、オペレータの受け入れ試験機

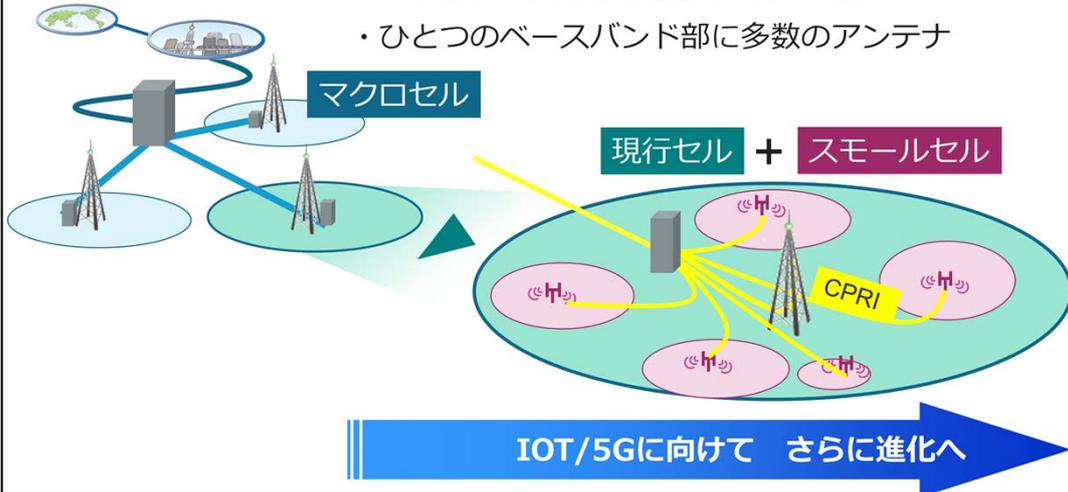
Ⅱ - 4. 新しい基地局ネットワークの構築開始

3~5GHz帯 スモールセルネットワークの建設開始

現行のLTE

モバイルトラフィックの増加⇒多数のスモールセルを敷設

- ・メタルケーブルから光ファイバー化
- ・ひとつのベースバンド部に多数のアンテナ



新しいサービス実現に向けスモールセルを活用した新しい基地局ネットワークの構築が始まっています。

新しいネットワークではさまざまな新しい技術の導入に向けた評価が進んでいます。

ネットワーク品質を高め、また建設業務の作業性を向上し建設費用の抑制に貢献する為にも、新しい測定が必要となりました。

当社は昨年後半から順次新製品のリリースを進めており、今後拡大する測定需要を確実に捉えていきます。

II - 5.有線から無線の様々なフェーズで増大する 測定需要の獲得を狙う

対象	コアネットワーク～モバイルフロントホール 	 基地局無線部 	
お客様	オペレーター 工事業者		
新しい ソリューション	SkyBridge Tools 建設作業効率化クラウド 		
	 ネットワークマスター ネットワーク・装置 の評価	 アクセスマスター 光ファイバーの評価	 BTSマスター 無線信号の評価  エリアテスター 通信範囲の評価
Anritsu envision:ensure		18	Financial Results FY2015Q1 Copyright© ANRITSU CORPORATION

スモールセルネットワークの建設に貢献する アンリツのソリューションを紹介いたします。

- SkyBridge tools: ネットワーク建設業務の効率向上に貢献するソリューション
- ネットワークマスター: モバイルバックホール ～ メトロ、コアネットワークの品質維持向上に貢献
- アクセスマスター: 既存ファイバーの高速利用に貢献する光ファイバー試験機
- BTSマスター: 基地局ネットワークの無線信号の品質維持向上に貢献
- エリアテスター: ユニット追加で新しい周波数に対応し、通話エリアの品質向上に貢献

II - 6. 『産業機械』 事業セグメント名称を PQA(Products Quality Assurance)事業に変更

安全・安心、健康な暮らしに貢献する

対象分野



農産物・水産物



加工食品



医薬品



化粧品

品質保証 ソリューション (QA)



自動電子計量機



X線異物検出機



金属検出機



オートチェッカ

総合品質管理・制御システム (QuiCCA)

事業部門

Anritsu Industrial Solutions から

Anritsu Infivis へ

(社名変更：2015年10月1日より)

当連結会計年度より、従来「産業機械事業」としていた名称を「プロダクツ・クオリティ・アシュアランス事業」に変更しました。

誰もが健康で豊かに暮らせる安全・安心な社会の実現は人類共通の願いです。

私たちは、食の工業化が始まった頃から半世紀以上に亘り、食品・医薬品産業にたずさわるお客様とともに、品質検査の高い技術力と現場力を培ってきました。

これからも、お客様とビジョンを共有し、品質保証の高度化を通じて安全な食品・医薬品の安定供給の実現に挑戦していきます。

